

第三十五豊進丸・第一恵比須丸 第八珠の浦丸が出漁へ

* おいしいサンマを届けたい *

雲間から見える青空の下、8月20日からの大型サンマ棒受網漁解禁に向け、16日に気仙沼港から第三十五豊進丸（佐藤隆康漁労長）が、同じく17日に第一恵比須丸（三浦悟漁労長）が家族や漁業関係者らに見守られ、前線基地となる北海道の釧路・根室の港に向けて出港した

■「出船送り」を開催

17日のこの字岸壁では、気仙沼の行事「出船送り」が開催され、新型コロナウイルス感染症拡大の影響がありながらも、感染防止対策を徹底しマスクを着用した家族や友人、船主、漁業関係者ら大勢が見送りに集まり、紙テープを握りしめ手を振りながら豊漁と航海の安全を願った。

港から先陣を切り出港した第一恵比須丸船主の松野均代表取締役は「サンマはここ数年全国的な不漁が続いており漁獲動向は不透明であり、また、ロシアのウクライナ侵攻による日ロ関係の悪化をはじめ、燃油価格や物価の高騰、コロナ禍の影響など不安材料は多く、漁を取り巻く環境は年々厳しさを増しているが、乗組員にはコロナ対策を徹底した上で、体に十分気をつけていつも通りの安全操業に努めてほしいとともに、今年もおいしいサンマを全国に届けたい」と好漁に期待を寄せた。

■魚津港（富山県）からも出港

16日には、第八珠の浦丸（獵田雄輔漁労長）が北海道に向け出港した。

3隻は漁模様にもよるが、北方四島周辺から常磐・銚子沖にかけての漁場で11月末から12月ごろまで操業する予定でいる。